

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 4年生では、国語辞典と共に漢字辞典も日常的に活用したことにより、言葉の理解が高く、主語述語の関係や漢字のへんやつくりをしっかりと理解することができている。
- ・ 5年生では、基礎力・活用力共に、目標値を上回ることができた。当該学年の漢字の読みは、ドリルや漢字ノート等を使った繰り返しの練習を指導したことで、概ね身に付けることができた。
- ・ 6年生では、文章量を意識して意見をまとめる指導の成果で、字数に合わせて記述する力が付いてきた。

(2) 課題

- ・ 今年の大田区学習効果測定の結果を見ると、観点別では、「主体的に学習に取り組む態度」、領域別では「書くこと」、解答形式では「記述」で、目標値を下回った。記述式の問題では、無回答率が高く、問題に取り組めていない児童の割合が高い。書く力を育て、主体的に学習に取り組む力を伸ばしていくことが課題である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値を下回っている。	目標値を下回っている。	
第5学年	目標値を上回っている。	目標値を下回っている。	目標値を上回っている。
第6学年	目標値を下回っている。	目標値を上回っている。	目標値を下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 目標値、区の平均を共に下回っている。 ・ 言葉の特徴や使い方に関する事項についての問題と主語と述語との関係についての問題で目標値を大きく下回った。	・ 目標値、区の平均を共に下回っている。 ・ 説明文の内容を読み取る問題や、調べたことを基に文章を書く問題での目標値を大きく下回った。	・ 目標値を大きく下回っている。 ・ 文章を書く問題の無解答率が高く、記述式の問題に取り組めていない児童が一定数いる。記述問題に対して苦手意識があり、取組前から諦めてしまっている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 5年生は目標値を上回っていて、6年生は目標値を下回っている。 ・ 5年生は、ことわざの意味や漢字辞典の使い方、漢字の読みの学習は概ねできていたが、漢字の書きや連用修飾語についての問題で、目標値を下回る問題が多く見られる。 ・ 6年生は、漢字の読み書きで目標値を下回る問題が多く見られる。	・ 5年生は目標値をやや上回り、6年生は目標値を下回っている。 ・ 5年生は聞き取りの問題については目標値を上回ったが、文章の読み取りについては目標値を大きく下回った。 ・ 6年生は説明文の読み取りについて目標値を上回り文章の記述の問題について目標値を大きく下回っている。	・ 5年生、6年生共に目標値を下回っている。 ・ 文章を書く問題の無解答は、5年生でも見られるが、6年生の無回答率が高く、記述式の問題に取り組めていない児童の割合が高い。記述問題に対して苦手意識があり、取組前から諦めてしまっている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
平仮名・片仮名・漢字の読み書きを繰り返し練習し、日常的に使うことで、しっかり定着させる。主語と述語が噛み合わない文のねじれ等をその時々で指導する。読み聞かせや朝学習で、語彙を増やす。	感想や理由を入れた自分の考え、つなぎ言葉を入れた簡単な説明など、児童の実態に応じた手本文や話型を用意し、文章を書いたり話したりすることに慣れさせる。	学習課題やポイントを明示し、進んで取り組めるようにする。また、ICTを活用し、視覚的に理解できるように工夫する。2人組での感想や考えの交流を、日常的に取り入れる。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読み書きの力を伸ばすために、学習した漢字を常に使用させるようにする。また、まとめテストなどを活用し、繰り返し練習に取り組み学習内容の定着を図る。朝学習の時間や「書くって楽しいね」を活用し、基本的な文章を書く力を伸ばす。	説明的な文章は、中心となる語や文章に、傍線を引いてつながりを意識して読ませる。ポイントを押さえ、「読み方」と「解き方」を身に付けさせる。例文も用意し、どの子も書ける工夫をする。	進んで取り組めるよう、自分達の学習課題を考えさせたり、教材が身近に感じられるよう、ICTを活用したり、導入を工夫する。また、文字言語での振り返りを取り入れ、自身の学びや変容を自覚できるような場面を設定する。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生は「指示語」、6年生は「連体修飾語や敬語」について正しく理解するために文書の読み取りなどを意識して取り扱う。また、教材の読み取りの段階から「初め・中・終わり」や「序論・本論・結論」の役割に着目し、自分の考えを書く際にもその役割を意識して書くことができるようにする。	数種類の資料を通して、資料を読むポイントを理解させる。根拠に基づいて文章を正しく読み取り、自分の考えを分かりやすくまとめられるように「書く活動」を工夫する。また、小グループで話し合う活動の利点を生かし、お互いに自分の考えを深めたり、広げたりする。意見文、要約文など、用途を意識して文章を書く練習に取り組ませる。	学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しをもって粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返って、次の学習につなげる。 「キャリアパスポート」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりする。

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTを活用し他の児童の考えやまとめを共有したことで、自分の考えに取り入れる姿が見られた。
- ・統計資料だけでなく、映像資料を活用することで、意欲的に学習に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・世界の国の位置や名前、都道府県の位置や名前など、知識・技能の問題の正答率が低い。
- ・資料を読み取り、正しい説明文を選ぶ問題の正答率が低い。
- ・基本的な知識を身に付け、適切に資料を読み取る力を伸ばしていくことが課題である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値を下回っている。		
第5学年	目標値を下回っている。	目標値を下回っている。	
第6学年	目標値を下回っている。	目標値を上回っている。	目標値を下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ほぼすべての単元で、目標値を下回った。 ・工場の仕事の単元では目標値を上回り、くらしのうつりかわりの単元では、目標値と同程度だった。	・工場の仕事の単元では、目標値を上回った。 ・その他の単元では、目標値を下回った。	・販売の仕事の単元では、目標値を上回った。その他の単元では、ほぼ目標値程度だった。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ほぼすべての単元で、目標値を下回った。	・5年の都道府県の様子、特色ある地域の様子、6年の水産業、情報を生かした産業の単元では目標値を上回った。 ・その他の単元では、目標値を下回った。	・5年、6年ともに、全体的に目標値を下回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 棒グラフ、折れ線グラフの読み方といった、統計資料を読み取るための技能を身に付ける。 - 実際に話を聞いたり、写真や映像資料を活用したりしながら知識の定着を図る。	資料を読み取り、まとめる活動を充実させる。	- 身近な場所の写真や教員の経験を話すことで、社会的事象を自分事として捉えられるように、導入を工夫する。 - 導入で単元全体の見通せる問いを設定し、それを解決する学習計画を立てる。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 写真や映像資料の活用をする。社会的事象に関わる語句と視覚資料を結び付けて捉えさせ、基本的な知識の定着を図る。 - 統計資料や年表を読み取るための技能を継続して指導する。 - 教科書の音読を宿題にする。	- 複数の資料を比較するなどの見方を身に付けさせる。 - 対話やノートの紹介を通して、友達の考えを知ること、自分の考えを広げられるようにする。	- 報道で取り上げられている事象について、新聞記事を提示したり、教員の経験を話したりすることで、社会的事象を自分事として捉えられるよう、導入を工夫する。 - 人物にまつわるエピソードや過去の写真やイラストを提示することで、歴史的事象を身近なものとして捉えさせる。 - 導入で単元全体を見通せる問いを設定し、それを解決する学習計画を立てる。

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・友達に説明をする機会を多く設けたことで、思考の流れを整理し、まとめながら話すことができる児童が増えた。それにより、特に中学年で知識・理解の定着が見られるようになってきた。
- ・授業で学んだことを、自分の言葉で振り返ることができる児童が増えた。

(2) 課題

- ・学習で学んだことを活用して新たな問題に向かうことが苦手である児童が多い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値を下回っている。		
第5学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	
第6学年	目標値を下回っている。	目標値を下回っている。	目標値を上回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識・技能ともに身に付けている児童が少なくなり、目標値に概ね近い数値が出ているものの、わずかに下回っている。	思考・判断・表現を苦にしない児童が増加し、活用の項目では区平均を上回る結果となった。	下位層に比重を置いた授業を展開しながらも、友達に考え方を説明する機会を増やしたことで、学習に臨む態度は改善してきている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小数の計算に苦手意識が見られる。かけ算わり算の小数点の移動のルールが定着していない。	もち得た知識が必要な場面を迎えても、必要な解答方法を選択することができないことが多い。	単純な構図の問題については主体性をもって取り組めるものの、先に出た解答を活用して解く問題に対して適切にアプローチできない児童が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
計算カードや具体物などを使った体験的な学習を通じて、数の概念や、基本的な計算の型を定着させる。	文章問題の状況を絵や図に表して表現できるようにする。また、文章題のキーワードを探し出し、下線を引けるようにすることで、適切に問題を読み取り、自分の考えを言語化する力を高める。	児童が関心をもって課題に取り組めるように、体験し、自分が考えたことを伝え合う活動を通して、考えを広げたり深めたりすることの楽しさを感じられるような授業をする。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
算数に必要な公式や作図方法、専門用語、基礎的な四則計算の方法を定着させるように、基礎的な知識を活用して解く問題に取り組ませる。	図式化、数字については特に数直線を活用し、説明する活動、式と関連づけて説明する活動を十分に取り入れ、児童が考えを伝え合う活動を設け、自らの考えをさらに広げ、深められるようにする。	日常生活に関連付けた課題、実際の数量を確かめる体験活動を基に、自分の考えを伝え合う活動をする。その中で自分の考えを伝えたいという意欲を高めていく。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
算数に必要な公式や作図方法、専門用語、基礎的な四則計算の方法を、登場した機会に反復を繰り返し、確実に定着させる。覚えた知識、技能を活用して解く問題に多く触れさせる。	文章問題に多く取り組ませ、キーワードに下線を引くなどして、題意を正確に把握できるようにする。そして、図や数直線に多く取り組ませ、自分の言葉で適切に表せられるようにする。	自分の生活との関連他教科や既習事項との関連を踏まえながら、児童が見通しをもって、自分の考えを伝え、主体的に学習に取り組めるようにする。根拠をもって、児童が考えを伝え合う活動を設け、自らの考えを広げ、深められるようにする。

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実験を行う前に既習事項の確認を行ったことで、既習事項を活かした実験方法を考えるなど、思考の深まりが見られた。
- ・具体物を用いて観察したり、重さを量ったりする活動を意識的に取り入れたことが知識や理解の定着の工場につながった。

(2) 課題

- ・グラフを読み取る力の定着に課題が残った。理科の学習だけでなく、社会や他の教科との連携も行いながら、グラフを読み取る力の定着を図る必要がある。
- ・語彙力の不足等から実験方法や予想、結果、考察をまとめる際に相手に伝わるように言語化する力が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値を下回っている。		
第5学年	目標値を下回っている。	目標値を下回っている。	
第6学年	目標値を下回っている。	目標値を下回っている。	目標値を上回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ホウセンカは花が咲いたあとに実ができることや昆虫の足が胸の部分についているなどの知識が不足している。	・ホウセンカのからだのつくりからネギのからだのつくりを推測したり、実験の方法から考えの根拠となる磁石の性質を説明したりする力に課題がある。	・観察や実験に対して、授業では意欲的に取り組んでいるが、実験方法から問題を見出したり推測したりする力に課題がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・1年間の動物の様子や天気の様子と気温、人の誕生の正答率が低い。顕微鏡の使い方やふりこのきまりも苦手な傾向がある。	・金属の性質や土の粒の大きさによって水のしみこみやすさが変わるなど、推測して考える力に課題がある。	・季節ごとの動物や植物の変化など年間を通して継続的に取り組む力に課題がある。特に植物

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・観察する際のポイントを明確にして指導する。 ・実物に触れる体験的な活動の機会を増やし、知識や理解を深める。	・実験の結果から、違いや共通点に着目して問題を見出したり、理由を明確にして説明したりする活動を増やす。 ・キーワードや文型を用いるなどして考察を書けるように工夫する。	・児童の疑問や発言を活かしながら主体的に実験や観察に取り組めるようにする。 ・他者との関わりを増やし、対話的な活動に取り組むことで、意欲を高めていく。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実験や観察の時間を確保して充実させることで、知識や理解の定着を図る。 ・実験器具を適切に使えるようにするために、操作する機会や時間を十分に確保する。	・グラフや結果等の資料を基に根拠を示しながら、自分の考えを伝えあう場面を設定する。 ・学んだことを他の事象に当てはめて推測する場面を設定する。	・児童の疑問や発言を活かしながら主体的に実験や観察に取り組めるようにする。 ・他者との関わりを増やし、対話的な活動に取り組むことで、意欲を高めていく。

令和6年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・朝顔を育てる活動を通して、生長の変化を捉えて観察することができた。
- ・野菜を育てる活動を通して、育った野菜をどのように料理するかを調べて、発表することができた。
- ・おもちゃ作りでどのように作ったら動くか、どのように遊んだら楽しく遊べるか等、グループで話し合いながら工夫して作ることができた。
- ・町探検を通して地域の人と触れ合ったり、自分たちの地域にはどのようなお店や公園、公共施設があるか理解を深めたりすることができた。
- ・学校探検などを通して、学校施設の様子や学校生活を支える人々について理解することができた。
- ・どんぐりを拾い、どんぐりを使った秋遊びを行うようになった。
- ・1・2年生、保育園との交流学習をもつことにより、学びの成長が見られた。

(2) 課題

- ・四季の変化や季節を感じて、活動する経験を積ませる。
- ・自然を利用した遊びや自然の不思議を感じ楽しむ経験を積極的に積ませる。
- ・公共物や公共施設を利用するときのルールやマナーを学び、自分の生活に生かす。
- ・他の学年や地域の方と関わりをもつ機会を作り、自分以外の人のことを考えて行動する経験を積ませる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近な自然を観察したり、季節の行事に関わったりする活動を通して、違いや特徴を見付けることができるようにする。また、四季の変化や季節によって生活の様子が変わること気付かせられるようにする。 (例：朝顔や野菜作り、季節ごとに校庭の木々の様子、自分たちが住む町の様子等) ・身近にある公共施設へ行き、皆で使う物や場所、施設を大切に正しく利用するためのルールやマナーについて学ぶことができるようにする。 (例：図書館見学・駅・電車を利用する等) ・生命及び自然に対する興味や愛情を認め、さらに生命や自然に対する思考に至るような活動や言葉かけを工夫していく。 ・自分自身を見つめる機会を通して、自分の生活や成長には身近な人々の支えがあることに気付けるようにする。	・身近な人（友達、家族、保育園、他学年や地域の人、公共施設で働く人）と関わることを多くの機会を多く設定し、自分とはどのような関係があるかを意識させる。 ・家庭における家族のことや自分でできることについて考え、自分でできることを増やしていく。 ・自分のことを支えてくれた人々について考える。 ・気付いたことや考えたことを様々な方法（言葉絵、動作、ICT等）で表現できるようにし、丁寧に見取るようにする。 ・自分が考えたことや思ったことを伝え合う時間を十分にとることで、活動を振り返り自分と友達の意見を比べたりすることができるようにする。 ・友達との交流を通して、新たな気付きや思い、考え、活動が生まれるようにしていく	・自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物に目を向け、地域との関わりをもてる活動を設定する。それにより、社会の一員としての安全で適切な行動をしようとする態度を育てる。(例：身近な公園や公共施設へ行き、公共物や公共施設の利用方法を学ぶ) ・日常的に動植物に触れる機会をもてるよう工夫する。それらを観察したり、体験したりすることにより、動植物に親しみをもち、大切にすることを育む。 ・自分の願いや思いをもち活動させ、学習に対する意欲を更にもたせる。 ・対象と関わる中で知りたいことや疑問に思っていることを話し合い、児童が思いや考えをもって主体的に活動できるようにすることで、満足感や達成感を味わうことができるようにする。

令和6年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・歌唱や鑑賞活動において、音楽的要素に気付いて曲を分析し、表現を工夫しようとする姿勢が見られた。
- ・ペアワークやグループごとの演奏などを取り入れることにより、児童が協働的、主体的に学習する姿が多く見られるようになった。

(2) 課題

- ・音楽的要素と関連付けた曲の理解はできるが、自ら考え、表現に生かすまでには至らない。主体的に表現を工夫するための基礎的な知識・技能の定着を図っていくとともに、仮説を立てて実験的に表現する体験をするなど、実感をもたせながら表現の方法を身に付けさせたい。
- ・基本的な知識や技能が定着している児童と十分でない児童の差がみられるので、スモールステップで学習に取り組ませることによって、定着を図るようにする。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・タンバリンやカスタネットなどの身近な楽器や歌唱の基本的な演奏方法を理解させる。曲想と音楽の構造などの関わりに気付かせる。	・音楽を形づくっている要素を聴き取り、音楽表現をする上でどのように表したいか思いをもって演奏したり聴いたりさせる。	・身体を動かしながら身の回りの音楽に楽しく関わり、友達と音楽活動をする楽しさを感じられるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近な楽器や様々な歌曲に触れる機会を増やし、基礎的な技能を身に付けさせる。また、表現の工夫に繋げるための知識を音楽的要素と関連させながら身に付けさせる。	・曲想に対する表現方法を音楽的要素と関連させながら自分なりに意図をもって考え、仮説を立てて表現したり、鑑賞したりする。	・音楽活動を楽しみながら、ペアワークやグループワーク等を通して進んで音楽活動に関われるようにする。様々な音楽に触れる機会を増やし、感じたよさを伝えあう場を設ける。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を確実に身に付けさせる。	・曲想に対する表現方法を音楽的要素と関連させながら自分なりに意図をもって考え、仮説を立てて表現したり、鑑賞したりする。	・音楽活動を楽しみながら、ペアワークやグループワーク等を通して主体的・協働的に音楽に関わり、感じたことや気付いたことを、根拠をもって伝えることができるようにする。

令和6年度 図工科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・タブレットは新しい機能でも応用的に使いこなすことができるようになった。
- ・自分の発想を作品に表現しようとする姿勢が見ることができた。
- ・友だちの作品、名画ともに楽しみながら鑑賞することができた。

(2) 課題

- ・発想が浮かばないため、授業に取り組む意欲が低下することを解消する手立てを行が必要と考える。
- ・道具類の扱いと知識が少ない。課題をこなしながら知識と経験を積み重ねることとする。
- ・友だちへ鑑賞の言葉がけがうまく行かず相手に伝わらないことがある。言葉による表現を学べる場が必要と考える。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
手や体全体の感覚や技能を働かせてつくる活動を多く設定し、身近な材料や扱いやすい用具で色や形を試しながら、経験的に技法を身に付けさせていく。	感じたことや想像したことから、表したいことやつくりたいものを見付けて表せるよう、造形遊びの中で楽しみながら試していく活動を多く取り入れる。	進んで表したり見たりして造形活動を楽しめるよう、身近にある多種多様な材料を基に、体を使って楽しみながら取り組める素材体験活動を増やしていく。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前学年までの材料や用具についての経験と既習に重ね、新たな用具を正しく安全に使うための基礎技術と、表現によつての使い分ける技能を、繰り返し習得させていくことに時間をかけていく。	身近な材料や場所などを基に他教科や日常生活の中での経験を生かした発想をしてつくることのできるようにする。みんなで考えを共有できるような場面設定を行い、鑑賞の際の語彙を増やす。	進んで表現したり鑑賞したり、つくり出す喜びを味わえるような題材選びと、目的や面白さ、学習ルールなどを共有できる活動を工夫し組み込んでいく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の表現を柔軟に広げられるよう、制作の方法の説明や、材料、道具類を揃え、制作環境を充実させていく。	材料や場所の特徴を基に構成したり、自分が表したいことや伝えたいことを見付けて構想したりできる課題を設定しアイデアにつながる声掛けや資料の提示をするとともに、目的や用途に目を向けて考えさせていく。	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、自分の表したいことを見付けて表せる課題を設定し、イメージと見通し（計画）を確認しながら活動できるようにする。

令和6年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・技能習得の場面では、ICT教材を効果的に活用しながら指導を行うことができた。
- ・調理実習を実施し、基本的な調理の経験をすることができた。
- ・衣食住などに関する実践的・体験的な活動への関心をもち、技術面での個人差はあるものの裁縫・調理・洗濯などの活動に意欲的に取り組んだ。

(2) 課題

- ・個々の生活や家庭環境に差があり、実感がわからない児童がいる。
- ・学習の内容を、自分の生活と結び付けて考えようとする意識が低い。引き続き学習の前段階として既習事項や生活経験等、児童の実態を把握した上で課題を設定し、実生活に生かせる学習にすることで、児童の主体的な取り組みを促す。また学習後には、レポート課題などとして家庭での実践を計画的に取り入れて評価する。
- ・学習を通して自分の考えの幅を広げ、課題解決に向けた選択肢を増やしていく必要がある。そのために、基本的な技能や方法をしっかりと身に付けられるように、できる児童が苦手な児童に教えるようなグループ活動なども取り入れていく。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・個人差に合わせた技能習得の場を設定し、ICT教材を活用しながら指導を行う。 ・すすんで活動できるよう、用語・用具の使い方も知識として習得させる。 ・児童自らが課題を設定し、解決のため学習を進める問題解決型学習を行うことで、学んだ知識をより深く理解できるようにする。	・授業環境を整え、豊かな発想ができるようにする。 ・校内の清掃活動中の様子や給食の配膳時の盛りつけ方など児童の工夫を確実に見取り、賞賛の言葉かけをする。 ・よかった取り組みを、学級全体に紹介して広める。 ・児童一人一人の考えを分類・整理して、課題に合った解決策に気付けるようにしたり、設定した条件の中で考えを選択したりできるようにする。	・家庭での生活を振り返り、家族の一員としての意識を高め、実際に自分の知識や技能を生活に生かせる学習の場を設定する。 ・長期休業中を含め、家庭での実践を計画的に取り入れる。 ・児童が関心をもち、楽しく取り組んでいけるよう題材や資料などを工夫する。

令和6年度体育科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・スモールステップ学習の場や恐怖心が低減できる場があることで、児童が主体的に活動に取り組むことができた。
- ・一人一人が自分の課題をもって取り組めるよう自分の課題に合った練習の場を設けたことで児童にとって個の課題と向き合うことができ課題解決するための練習ができた。
- ・ICTを授業に取り入れることで、児童本人がどのように体を使っているかが把握できるため課題点の把握と課題解決が昨年よりも早くなった。

(2) 課題

- ・児童同士がそれぞれの課題について試行錯誤しながら一緒に運動している場面があまり見られなかった。
- ・健康的な生活等については、自分の生活を振り返り課題を見つけ改善しようとする態度に個人差が見られる。そのために、生活習慣を振り返るためのチェックシートを活用し健康的な生活習慣を定着させなければならない。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題となる動きができるようにそれぞれの運動に楽しく取り組む。タブレットや電子黒板で動画の手本を参考にし、運動のポイントを確認し理解を深める。	簡単な遊び方を工夫できるようにする。遊びを通して学んだ動きが、どのように発展していくのか考える。	個人に応じためあてがもてるように学習カードを準備する。振り返りでは自己評価を行う時間をとる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットや電子黒板で動画の手本を参考にし、運動のポイントを確認し理解を深める。(体育)動画を視聴して、健康的な生活を送ることが体の発育・発達に関わることを理解することができる。(保健)	自己の能力に適した課題をもち、めあてを達成できるようにするためにスモールステップ学習を取り入れてできるようにする。新たに学習した運動が、どのような運動に発展していくかを考える。タブレットで自分の動きを撮影して運動のポイントを確認し改善できるための方法を考える。(体育)	めあてを明確にし、それを基に、教え合ったり、励まし合ったりする場を設定して運動を楽しくできるように取り組む。(体育)生活習慣を振り返るためのチェックシートを活用し健康的な生活習慣を定着ができるように取り組む。(保健)

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットや電子黒板で動画の手本を参考にし、運動のポイントを確認し理解を深める。(体育)電子黒板で動画を視聴して、心の健康、けがの防止及び病気の予防について理解する。(保健)	自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫できるようにする。タブレットでお互いの動きを撮影して、運動のポイントを児童同士教え合う場面をつくる。(体育)	めあてを明確にし、話し合いの場を設定して運動の楽しさや喜びを味あわせるようにする。(体育)病気やけがを予防するために、健康的な生活を送ることができるように取り組む。(保健)

令和6年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立東六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・日常の挨拶や曜日・時間など外国語を使って基礎的な会話を毎回繰り返すことで、日常会話に親しむことができた。
- ・ALT 講師(外国語指導助手)の手本を参考に、外国語を使った会話に気軽に取り組めた。
- ・学習した単語や文法を使って、自分が伝えたいことを外国語で伝えることができた。
- ・映像や音声の ICT 機器を活用することで、外国語に親しむことができた。

(2) 課題

- ・わからない単語があっても、文脈等から理解する力を身に付けさせる必要がある。
- ・例文を参考にしながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて書く力を身に付けさせる必要がある。
- ・積極的に外国語を使ってコミュニケーションを取ろうとする意欲を高めていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年			
第5学年			
第6学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。

(2) 分析(観点別)

① 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ほぼすべての項目で目標値を5ポイント以上上回っているので、基礎的な知識・技能が身に付いていると考えられる。今後も日常会話で使用するような簡単な単語や文法の知識を広げる必要がある。	・昨年度と同様に、簡単な語句や基本的な表現を用いて文章を作成する力に課題がみられる。英文がどのように構成されているのかの理解力が弱いことが原因だと考えられる。	・自分の考えや気持ちなどを外国語で伝えることが消極的な傾向にある。外国語を使って話することに、自信がもてないことが原因だと考えられる。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 低学年(外国語活動)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ICT を活用し、外国の言葉や文化に興味をもたせる。	・児童の実態に合った歌やチャンツなど身体表現やリズム遊びを行う。	・音楽のリズムに合わせて外国語に慣れ親しませる。

(2) 中学年(外国語活動)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ICT を活用し、他国の文化に触れる時間を設け、外国語に親しめられるようにする。	・外国語で聞いたり話したりする機会を増やし、自分の考えや気持ちを伝え合う素地を養う。	・挨拶や、質問したり質問に答えたりする英会話を楽しく取り組ませる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・外国語を読んだり書いたりする時間を増やし、基礎的な技能を身に付けるようにする。 ・講師や友達の手本を参考に、自分の力で作文できるようにする。	・その場や状況にあった言葉を伝えられるように言い方を何度も練習し、伝え合う機会を増やす。 ・ICT 機器を活用し、外国の映像や音声に親しませる時間を取り入れる。	・友達や先生と積極的に会話できるゲーム的要素を取り入れる。 ・外国語を使って少人数の児童同士で対話する時間を設ける。